

■ 燃料漏れ点検

燃料漏れは、始業前に点検を行ってください。

■ 刈刃締付ボルトやその他ネジのゆるみ、損傷

刈刃締付ボルトやその他ネジのゆるみ、損傷は、始業前に点検を行ってください。

( 16、17、19 ページ)

■ 刈刃の切れ味、ひび割れ、偏心、偏摩耗

刈刃の切れ味、ひび割れ、偏心、偏摩耗は、始業前に点検を行ってください。

( 16、17、19 ページ)

◆ 研ぎ方

注意



グラインダーで研ぐときは、強く押し付けたり、水の中に急に入れて冷やさないようにしてください。

※ 刈刃の破損や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

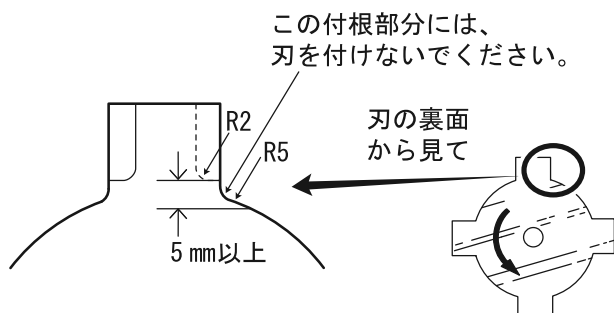
刃の付根部分には必ずマルミを付けてください。

※ マルミを付けないと、使用中、付根部分から割れることがあります。

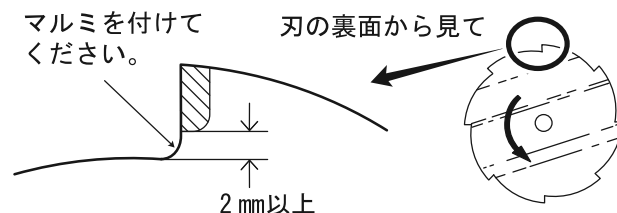
刃の形や大きさが全て同じになるように研いでください。

※ バランスが崩れると振動源となります。

〈4 枚刃〉



〈8 枚刃〉



■ 燃料の補給

⚠ 警告



燃料の補給はエンジンが冷えていることを確認してください。

燃料の補給やエンジンの手入れをしているときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないようにしてください。補給中に燃料をこぼしたときはウエス等で十分に拭き取ってください。

※ 燃料に引火し、ヤケドや火災等を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意



ガソリンとオイルをエンジンのタンクに直接入れて混ぜ合わせないでください。

別の容器で十分混ぜ合わせてから給油してください。

※ 十分に混合されない場合があり、エンジンが焼き付く等のおそれがあります。

古い混合油は使用しないでください。

※ 始動不良、出力不良等のおそれがあります。また、キャブレタが詰まる原因になります。

使用燃料は、ガソリンと2サイクル専用オイルの混合油です。
混合する割合（混合比）は下表を参照してください。

混合比	ガソリン	2サイクル専用オイル
50 : 1	50	1 (FC・FD級オイルに限る)

1

燃料キャップを開けます。

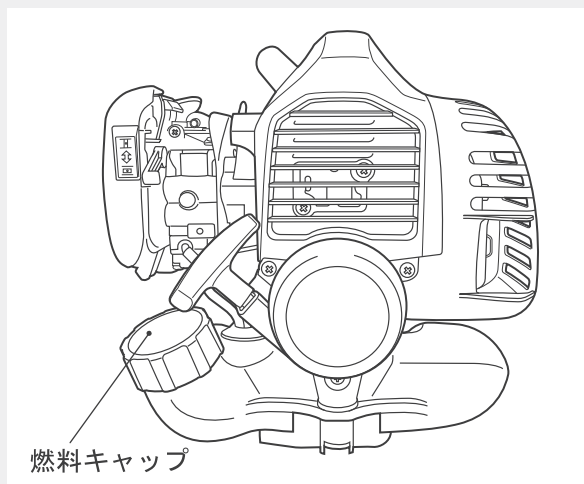
2

混合油を給油口から入れます。

- あふれない程度に入れてください。

3

燃料キャップを閉じます。



4.3 試運転と調整

⚠ 注意



キャブレタの調整はむやみに行わないでください。

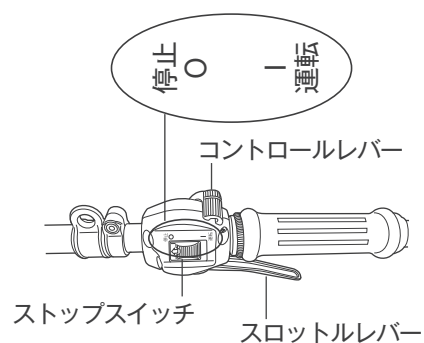
※ 始動・加速不良やエンジンの焼き付き等、故障する原因になります。

1 エンジンを始動します。(📖 24 ページ)

2 1分程度暖機運転をした後、振動・異音等に注意しながらスロットルレバーをにぎりコントロールレバーを除々に引いて回転を上げます。

- 特に、刈刃の付近に異常・ガタツキがないか注意してください。

3 スロットルレバーを放し、刈刃が回転しないエンジン回転数まで下がることを確認します。

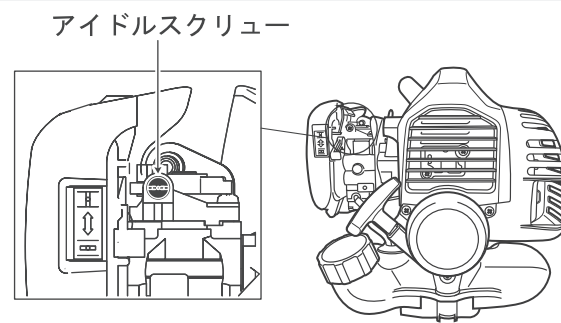


◆エンジン回転が下がらない場合

1 スロットルワイヤがキャブレタやスロットルレバーにきちんと差し込まれており、スロットルワイヤがスムーズに動き、キャブレタが全閉まで戻るか確認します。

2 上記の調整後、アイドルスクリューで刈刃が回転せずエンジンが止まらず安定する程度に、エンジン回転数を下げます。

- 右に回す …… 回転数が高くなる
- 左に回す …… 回転数が低くなる



5. 移動と作業前準備

5.1 移動するとき

⚠ 注意



自転車やオートバイの荷台に載せて移動しないでください。
※ 刈払機が落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



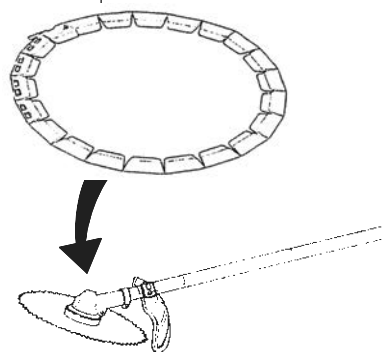
本機を移動するときは、必ずエンジンを停止し、刈刃プロテクタを刈刃に付けてください。
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラック等の荷台に本機を積み、移動する場合は、動かないようにしっかりと固定してください。

※ トラックから刈払機が落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

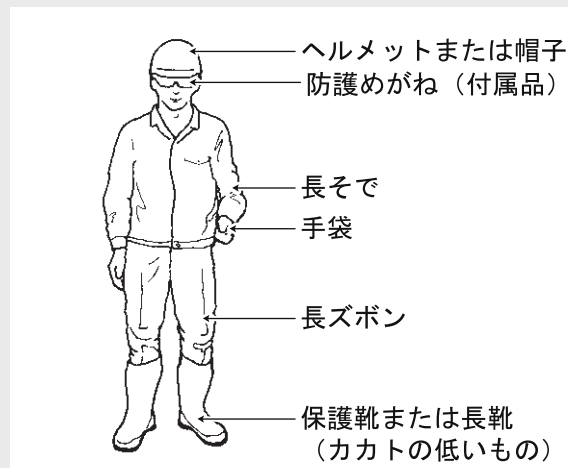
付属の刈刃プロテクタを取り付けてください。

刈刃プロテクタ



5.2 作業時の服装

- 服装は、きちんとした活動的なものを着用し、ヘルメットおよび防護メガネまたは顔面防護ネット等を必ず着用してください。
- 保護靴またはこれに準ずる靴を着用し、すね当てを併用してください。
- 丈夫ですべりにくい手袋を着用してください。だぶついた袖口の服装や手ぬぐい等は、木の枝等突起物に引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長時間作業のときは、耳栓を必ず装着してください。数人で作業を行う場合、緊密に合図を合わせるため呼笛を携帯してください。



5.3 肩掛けバンドの使いかた

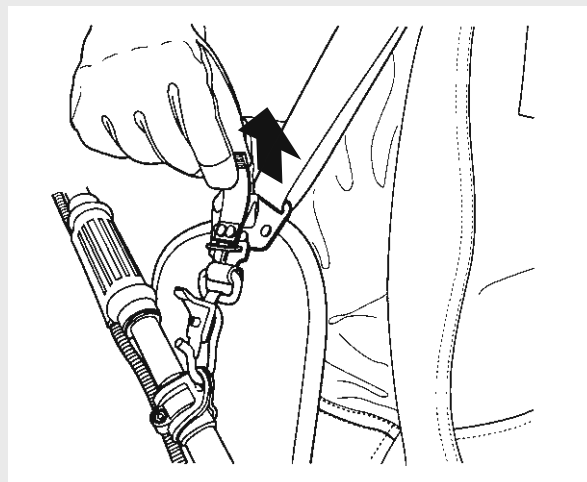
本機を左右に振る等して、全体のバランスを確認し、作業しやすいようにハンドルの位置・角度、吊り金具の位置を調整してください。

◆掛け方

- (1) バンドの長さおよびハンガーの位置は、使いやすいように調節してください。
- (2) 自然に持って、刈刃が地面より 5 cm 程度離れるくらいが最適です。

◆離脱方法

緊急の場合、離脱ベルトを上方(矢印)に強く引くと、本機を身体から離脱することができます。



6. 運転方法

お願い

運転方法の詳細については、別冊「エンジン取扱説明書」をお読みください。

⚠ 警告

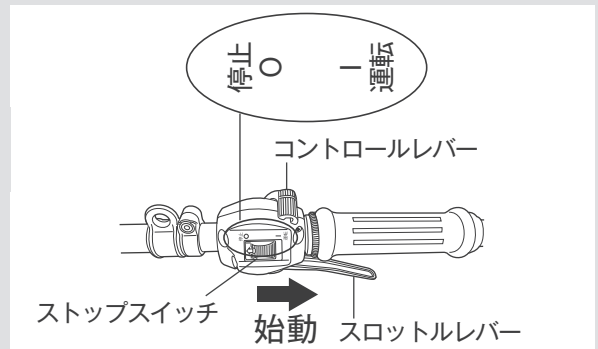


エンジン始動・運転中・停止直後は、しばらくはエンジン本体、マフラ等に触れないでください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6.1 始動のしかた

- 1 ストップスイッチを「運転(1)」側にスライドしているか確認してください。

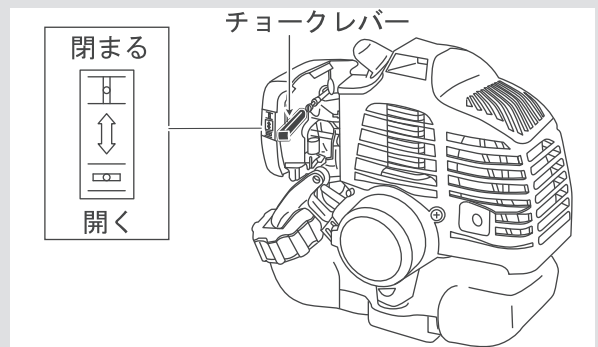


- 2 スロットルレバーをにぎらず始動してください。

- ループハンドル・2グリップを使用の場合、スロットルレバーが地面に触れないようにしてください。

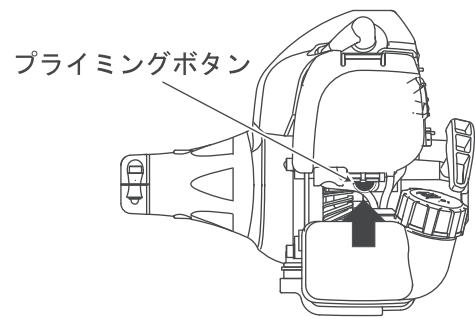
- 3 チョークレバーを全閉位置にします。

- エンジンが暖まっているとき(運転停止後、およそ15分まで)は、チョークレバーを全開位置にしてください。



4 プライミングボタンを指で上に当てるまで繰り返し押します。(10回以上)

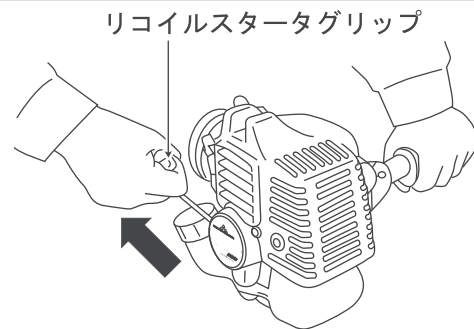
- 少ない操作の場合、始動不良になることがあるので、十分行ってください。
- 🔊 プライミングボタンを押すのは、燃料をくみ上げ、始動を容易にするためです。
- 🔊 くみ上げた余分な燃料はタンクに戻る構造になっています。そのため、プライミング操作を多く行っても吸い込み過ぎ状態になりません。



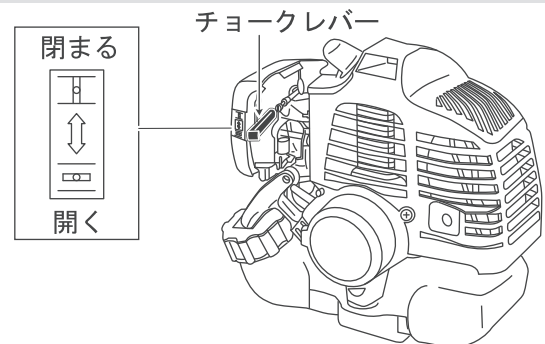
5 本機を押さえ、リコイルスタータグリップを握り、引っ張ります。

次の場合は、チョークレバーを「全開」位置に戻し、リコイル操作をしてください。

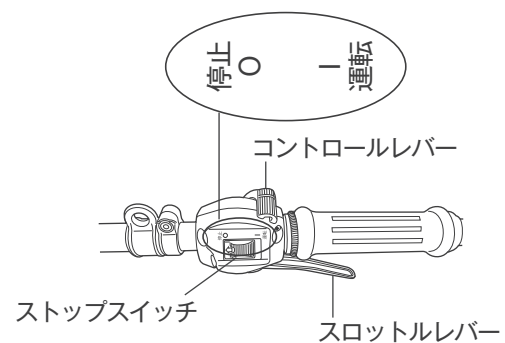
- エンジンが始動したが、途中でストップした場合
- 7~8回までリコイル操作しても、エンジンが始動しない場合



6 エンジンが始動したら、エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを全開位置にします。1分間程暖機運転をします。



7 エンジンの調子を見ながら、使用したい回転速度にスロットルレバーを握りコントロールレバーを操作します。

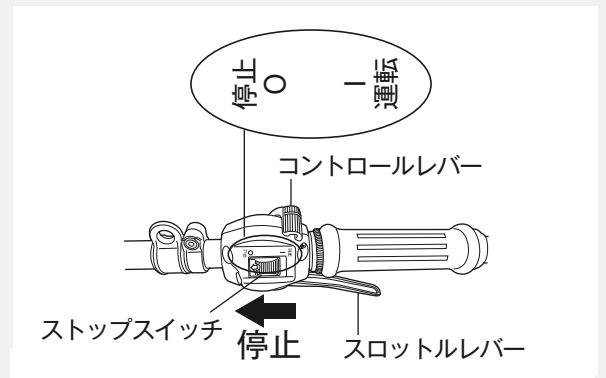


6.2 停止のしかた

1 スロットルレバーを放してエンジンの回転を落します。

2 ストップスイッチを「停止 (0)」にスライドしてエンジンを停止してください。

🔊) 引き続き後の作業がない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取ってください。その後、再始動して気化器内の燃料を使い切ってください。



7. 操作方法

⚠ 危険



刈刃で打つ、たたく等の方法で作業をしないでください。

※ 刈刃の破損や傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ハンドルは、両手でしっかり握り、両足に平均に体重がかかるよう適当に開いてご使用ください。

※ 転倒、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告



エンジン始動・運転中・停止直後は、しばらくはエンジン本体、マフラ等に触れないでください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



キックバックに注意してください。

高速回転している刈刃が、石や樹木、杭、コンクリート等、硬くて切れない固定物に触れた際に、刈刃部がはね返されるキックバックが起こります。

※ 機体が思わぬ動きをするため、正常な操作ができなくなり、傷害事故を引き起こす原因になります。また、刈刃が損傷したり、障害物が砕けたりして破片が飛散するおそれがあります。

⚠ 注意



作業を始めるときは、足場・周囲の状況をよく確認してから、ゆっくり始めてください。

刈刃部に草等が巻き付いて刈刃が停止した場合は、必ずエンジンを停止してください。

回転が止まったことを確認してから草等を取り除いてください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ハンドル等をしっかりと握ってください。

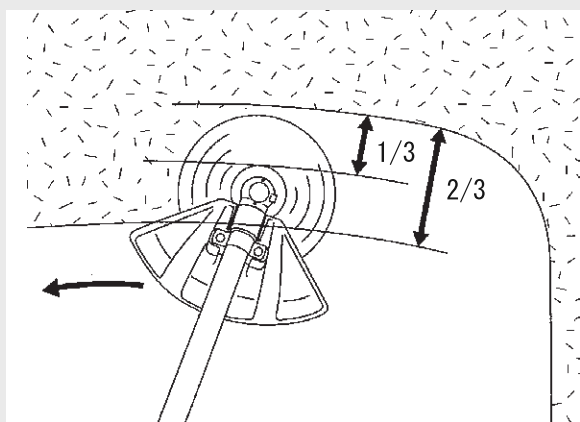
エンジンが回転すると逆方向に力がかかる場合（スラスト）があります。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

草刈作業は腕力で振り回したりせず、足場のよいところで、正しい姿勢でバランスを取って行ってください。

※ 転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) 草刈作業の場合、30～40分使用したら、刈刃を研ぐか交換してください。
(4枚刃の場合は、裏返して使用できます。)
- (2) 機体は、右から左に振って草を刈ります。
- (3) 身体を左右に振るように、正しい姿勢でバランスを取って作業を行います。
- (4) 刈り取られた草を左に寄せるようにして前進します。
- (5) 回転刃は、先端から1/3あたりがよく切れま
す。草を刈る場合は先端から2/3の範囲を使
うようにすれば刈り残しがありません。
- (6) 低速回転でも作業はできますが、草が巻き付く
ことがあるのでご注意ください。



8. 作業終了後

警告



各部の締め付けネジのゆるみがないか、刈刃に損傷がないかを点検し、ネジのゆるみがあれば締め付け、刈刃に損傷があった場合はメーカー指定の純正の刈刃と交換してください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ボルトカバーの接地部分の摩耗状態を確認し、部材肉厚が薄くなっている場合は交換してください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検整備・給油等は必ずエンジンを停止してから行ってください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

高温部の清掃をするときは、冷えてから行ってください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

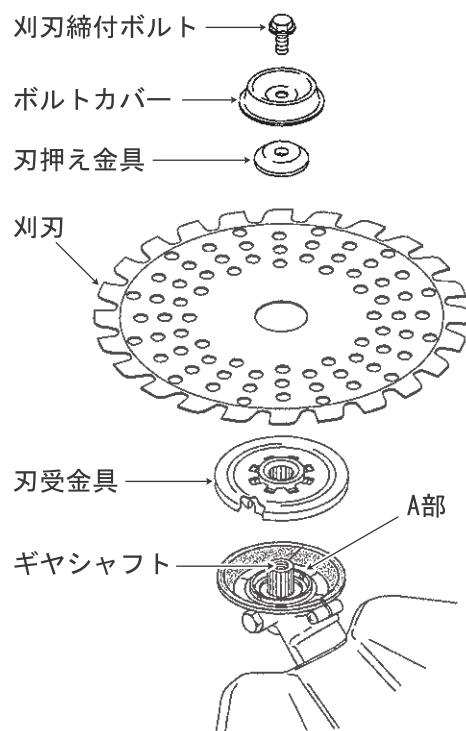
1 刈刃締付ボルトを外します。

2 ボルトカバー、刃押え金具、刈刃、刃受金具のすべてを外します。

3 ギヤケースのギヤシャフトの回りのゴミ（土、砂、草片）をきれいに掃除します。（右図 A 部）

ギヤシャフトに草、ナイロンヒモ等が巻き付いている場合もすべて取り除きます。

4 清掃後は、元の状態に組付けます。



※イラストは、反転した状態です。

9. 点検整備

9.1 定期点検表と注意事項

警告



各部の締め付けネジのゆるみがないか、刈刃に損傷がないかを点検し、ネジのゆるみがあれば締め付け、刈刃に損傷があった場合はメーカー指定の純正の刈刃と交換してください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ボルトカバーの接地部分の摩耗状態を確認し、部材肉厚が薄くなっている場合は交換してください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検整備・給油等は必ずエンジンを停止してから行ってください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

高温部の清掃をするときは、冷えてから行ってください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

機械の寿命は、手入れの良否によります。下記の表の項目について点検整備を行ってください。時間数は標準的な目安です。負荷状態や使用環境によって適宜増減してください。

項目	使用時間	使用時間			参照ページ
		10 時間	20 時間	50 時間	
ボルトカバーの点検・交換	目視・交換	○			31
点火プラグの清掃と調整	目視・清掃・調整		○		32
エアクリーナエレメント清掃	目視・清掃		○		32
ギヤケースのグリス補給	目視・補給		○		32
ボルト、ナット等の増し締め	目視・調整			○	33
カーボン除去	目視			○	33
気化器の点検、清掃	目視・点検・清掃			○	33
遠心クラッチ、ライニング面の点検	目視・点検			○	33
燃料フィルタの清掃	目視・清掃			○	33

- 修理、調整をするときはエンジンを停止し、2次コードをプラグから外してください。
- その他複雑な調整・修理はお買い上げ先にご相談ください。

9.2 10 時間毎点検

■ ボルトカバーの点検・交換

⚠ 警告



ボルトカバーは早めに交換してください。

※ ボルトカバーの地面に接する部分の摩耗が進み、極限に達すると、脱落・飛散するおそれがあります。

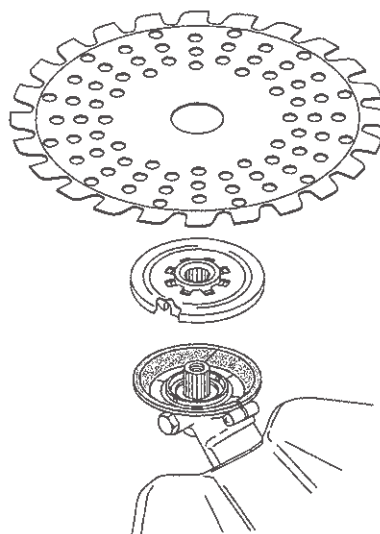
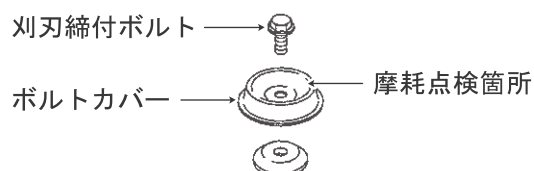
ボルトカバーは消耗部品です。使用する条件により異なりますが、10 時間程度の使用を交換の目安としてください。

1 刈刃締付ボルトを外します。

2 ボルトカバーを交換します。

🔊) 交換手順は、「刈刃」(□16、17 ページ) を参照してください。

3 刈刃締付ボルトを締め付けます。



※イラストは、反転した状態です。

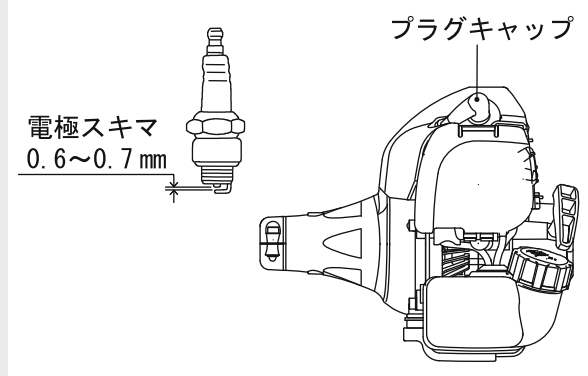
9.3 20 時間毎点検

■ 点火プラグの清掃と調整

点火プラグは、20 時間ごとに清掃、調整を行ってください。

電極およびガイシ部に堆積しているカーボンを清掃してください。その後、電極スキマを 0.6~0.7 mm（官製ハガキ 3 枚の厚み）に調整します。

🔊 取り付け時、プラグキャップは確実に押し込んでください。

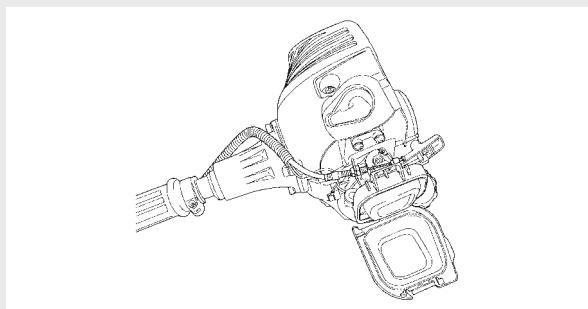


■ エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナエレメントは、20 時間ごとに清掃を行ってください。

エレメントを白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し片手で固く絞ってください。

🔊 清掃後は、取り外したカバーは元のとおり取り付けてください。



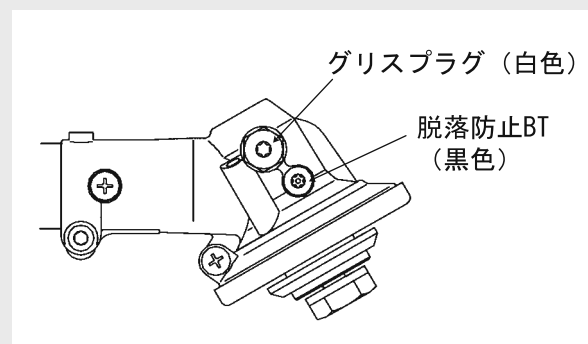
■ ギヤケースのグリス補給

グリスはエッソのリスタン EP2 相当のものを 20 時間ごとに補給してください。

1 グリスプラグ（白色）を取り外します。

2 グリスを注入します。

3 グリスプラグ（白色）を取り付けます。



※グリスプラグの下にある脱落防止BTはギヤケースが摩耗した時に、刈刃が抜け落ちるのを防ぐためのものです。決して触らないでください。

9.4 50 時間毎点検

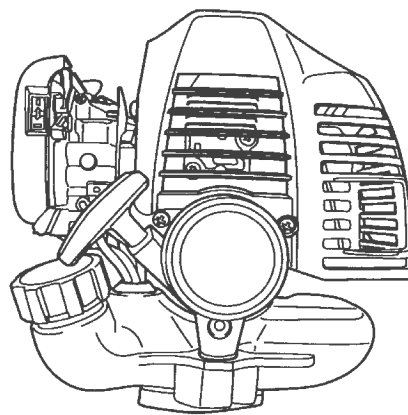
■ ボルト、ナット等の増し締め

ボルト、ナット等は、50 時間ごとに増し締めを行ってください。

■ カーボン除去

カーボン除去は、50 時間ごとに行ってください。マフラ出入口、シリンダ、ピストンのカーボンを除去します。

🔊) この作業は、エンジン整備の技術および道具を要します。お買い上げ先へご相談ください。



■ 気化器の点検、清掃

気化器は、50 時間ごとに点検、清掃を行ってください。

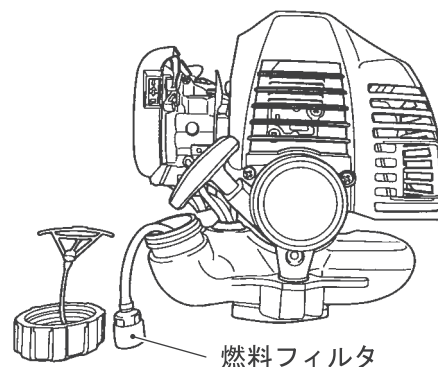
■ 遠心クラッチ、ライニング面の点検

遠心クラッチ、ライニング面は、50 時間ごとに点検を行ってください。

■ 燃料フィルタの清掃

燃料フィルタは、50 時間ごとに清掃を行ってください。

針金等で燃料注入口から引き出してきれいな白灯油で洗浄します。汚れがひどいときは、フィルタを交換の上、タンク内も洗浄します。



10. 保管

⚠ 注意



燃料を保管する場合、ポリ容器は使用しないでください。

※ 1 カ月以上ポリ容器に入れておくと燃料が腐ります。



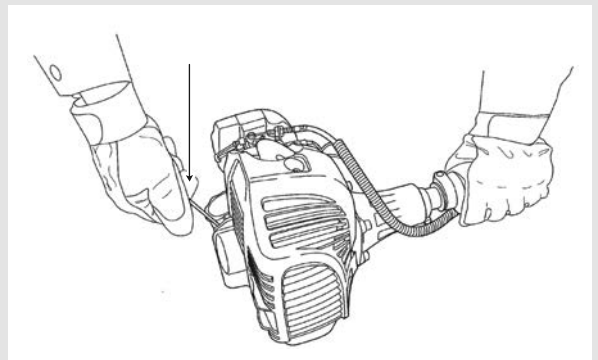
子供の手の届かないところに保管してください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

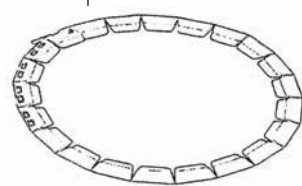
🔊) エンジンが十分冷えていることを確認してから直接日光の当たらない、湿気やホコリの少ない場所に保管してください。

10.1 日常の保管

- (1) 各部を十分に清掃し、金属部分には発錆防止のためオイルを薄く塗ってください。
- (2) 燃料タンク、キャブレタに残っている燃料は全部抜き取ってください。
- (3) 点火プラグを外し、プラグの穴から少量のオイルをシリンダに流し込み、リコイルスタータを数回引きオイルが行き渡るようにしてください。
- (4) リコイルスタータを引っ張って圧縮のあるところ（重くなったところ）で止めてください。
- (5) 損傷箇所がある場合は必ず修理してから格納してください。
- (6) 付属の刈刃プロテクタを取り付けてください。



刈刃プロテクタ



10.2 長期保管

- (1) 2 週間以上使用しない場合は、燃料タンク、キャブレタ内の燃料を全部排出してください。
 - キャブレタ内の燃料を抜くには、タンクの燃料を抜いた後、エンジンを始動させ低速のまま、自然にエンジンが停止するのを待ちます。
- (2) エアクリーナを清掃すると同時に各部の汚れを取り除いてください。
- (3) 点火プラグ取付穴より 2 サイクルオイルを数滴注入し、2~3 回リコイルスタータを引っ張り、ピストンヘッドが最もプラグに近い位置でプラグを装着してください。

11. 故障と対策

整備・修理をするときは、必要以上に分解せず、早めにお買い上げ先にご相談ください。

現象	原因	対策	参照ページ
始動しない	燃料切れおよび不良燃料	燃料補給・交換してください。	20
	燃料フィルタ目詰まり	清掃してください。	33
	始動操作ミス	エンジン始動方法の確認してください。	24
	ストップスイッチが OFF の状態	ストップスイッチを ON にしてください。	24
	点火プラグ不良	交換してください。	32
	キャブレタ不良	交換が必要です。 お買い上げ先へご相談ください。	—
出力不足	スロットルワイヤ調節不良	調節してください。	14
	エアクリーナの目詰まり	清掃してください。	32
	マフラにカーボンが堆積	清掃してください。	33
振動が大きくなる	刈刃のバランス不良	交換してください。	19
	刈刃の取り付け不良	取り付けの確認をしてください。	17
	各部のゆるみ	増し締めが必要です。 お買い上げ先へご相談ください。	—
	駆動軸の曲がり	交換が必要です。 お買い上げ先へご相談ください。	—
排気音が大きくなる	マフラのゆるみ	増し締めをしてください。	33
エンジン回転は正常だが刃物の切れが悪い	サイズの大きい刃を付けている	正規のサイズに交換してください。	17
	刃の摩耗	新しい刈刃に交換してください。	19
エンジン回転を落としても刈刃が止まらない	キャブレタ調整不良	スロットルワイヤアジャスタを調整してください。	14 21
エンジン回転を上げてても刈刃が回転しない	駆動軸の折損	交換が必要です。 お買い上げ先へご相談ください。	—
	ギヤの摩耗	交換が必要です。 お買い上げ先へご相談ください。	—

12. 付表

12.1 主要諸元

■ SED2200

型 式 名		SED2200		
区 分		W	L	2G
ハ ン ド ル		両手ハンドル	ループハンドル	2 グリップ
乾 燥 重 量 (kg)		3.9	3.7	3.6
全 長 (mm)		1756	1756	1756
全 幅 (mm)		555	220	206
全 高 (mm)		395	214	214
防 振 装 置		ハウジング防振	ハウジング防振	ハウジング防振
ス ト ッ プ ス イ ッ チ		スライド式		
変 速 比		1.33		
ク ラ ッ チ 方 式		自動遠心クラッチ		
刈 刃 回 転 方 向		左		
標 準 刈 刃		230mm		
標 準 装 備 品		刈刃プロテクタ、保護メガネ、肩掛けバンド		
工 ン ジ ン	名 称	三菱メイキエンジン TS23PDD		
	総 排 気 量 (cm ³)	22.5		
	使 用 燃 料	潤滑油混合ガソリン		
	混 合 比	50 (ガソリン) : 1 (2 サイクルオイル) —— FC・FD級オイル使用時		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (l)	0.5		
	気 化 器	ダイヤフラム式		
	点 火 方 法	無接点式マグネット点火		
	点 火 プ ラ グ	BM6A		
始 動 方 式	リコイル式 (ミラクルスタート)			
周波数補正振動加速度実効値の 3軸合成値 (m/s ²)		3.3	4.0	3.4
振 動 測 定 の 準 拠 規 格		ISO22867 : 2011		

※ 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

■ SED2300

型 式 名		SED2300		
区 分		W	L	2G
ハ ン ド ル		両手ハンドル	ループハンドル	2 グリップ
乾 燥 重 量 (kg)		4.3	3.8	3.7
全 長 (mm)		1756	1756	1756
全 幅 (mm)		555	220	206
全 高 (mm)		395	214	214
防 振 装 置		ハウジング防振	ハウジング防振	ハウジング防振
ス ト ッ プ ス イ ッ チ		スライド式		
変 速 比		1.3		
ク ラ ッ チ 方 式		自動遠心クラッチ		
刈 刃 回 転 方 向		左		
標 準 刈 刃		230mm		
標 準 装 備 品		刈刃プロテクタ、保護メガネ、肩掛けバンド		
工 ン ジ ン	名 称	三菱メイキエンジン TS23PDD		
	総 排 気 量 (cm ³)	22.5		
	使 用 燃 料	潤滑油混合ガソリン		
	混 合 比	50 (ガソリン) : 1 (2 サイクルオイル) ——FC・FD級以上の混合用オイル使用		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (l)	0.5		
	気 化 器	ダイヤフラム式		
	点 火 方 法	無接点式マグネット点火		
	点 火 プ ラ グ	BM6A		
始 動 方 式	リコイル式 (ミラクルスタート)			
周波数補正振動加速度実効値の 3軸合成値 (m/s ²)		3.4	3.8	3.9
振 動 測 定 の 準 拠 規 格		ISO22867 : 2011		

※ 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

SED2700

型 式 名		SED2700		
区 分		W	L	2G
ハ ン ド ル		両手ハンドル	ループハンドル	2 グリップ
乾 燥 重 量 (kg)		4.6	4.3	4.2
全 長 (mm)		1775	1775	1775
全 幅 (mm)		555	232	219
全 高 (mm)		405	217	217
防 振 装 置		ハウジング防振	ハウジング防振	ハウジング防振
ス ト ッ プ ス イ ッ チ		スライド式		
変 速 比		1.3		
ク ラ ッ チ 方 式		自動遠心クラッチ		
刈 刃 回 転 方 向		左		
標 準 刈 刃		255mm		
標 準 装 備 品		刈刃プロテクタ、保護メガネ、肩掛けバンド		
工 ン ジ ン	名 称	三菱メイキエンジン TS26		
	総 排 気 量 (cm ³)	25.6		
	使 用 燃 料	潤滑油混合ガソリン		
	混 合 比	50 (ガソリン) : 1 (2 サイクルオイル) ——FC・FD級以上の混合用オイル使用		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (l)	0.6		
	気 化 器	ダイヤフラム式		
	点 火 方 法	無接点式マグネット点火		
	点 火 プ ラ グ	BPM7Y		
始 動 方 式	リコイル式 (ミラクルスタート)			
周波数補正振動加速度実効値の 3軸合成値 (m/s ²)		4.0	5.0	4.3
振 動 測 定 の 準 拠 規 格		ISO22867 : 2011		

※ 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

13. 振動障害の予防

2009年に厚生労働省から振動障害予防対策として、日振動ばく露量を抑制する指針が出されました。指針の内容を理解のうえ、日振動ばく露量の低減に努めてください。

- 指針の詳細は安全衛生情報センターのホームページ (<http://www.jaish.gr.jp/>) の通達一覧から参照してください。
- チェーンソー以外の振動工具の取り扱い業務に係る振動障害予防対策指針について
平成21年7月10日 基発0710第2号
(<http://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-50/hor1-50-27-1-0.htm>) を参照してください。

13-1. 日振動ばく露量A(8)

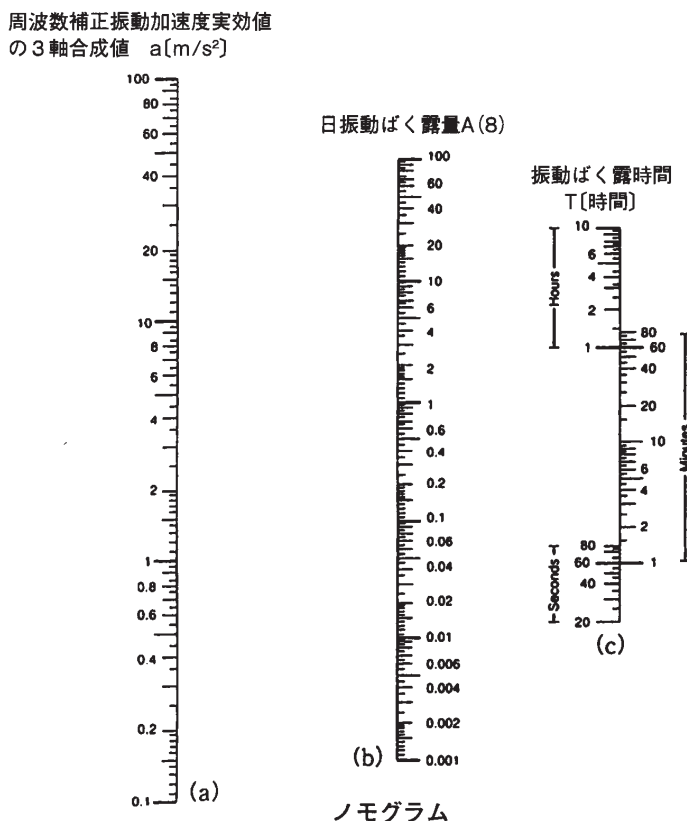
「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」と一日当たりの振動ばく露時間から、次式により日振動ばく露量A(8)を求めてください。

- 日振動ばく露量A(8)は5m/s²以下となるように振動ばく露時間(作業時間)Tを設定してください。
- 1日当たりの振動ばく露時間(作業時間)Tは2時間以下で設定してください。

$$\text{日振動ばく露量：} A(8) = a \times \sqrt{\frac{T}{8}} \quad [\text{m/s}^2]$$

(注) a [m/s²]：周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値
(本体表示ラベル又は29ページの「付表」)
T [時間]：1日の振動ばく露時間

日振動ばく露量A(8)は、下記のノモグラムからも求めることができます。このノモグラムの使用方は、(a)に「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」をプロットし、(c)に「振動ばく露時間」をプロットし、その2つの点を結ぶことにより(b)の「日振動ばく露量A(8)」を求めることができます。



13-2. 1日に複数の振動工具を使用する場合

1日に複数の振動工具を使用する時は、下表を利用して個別作業ごとの「振動ばく露量： $A_i(8)$ 」を求め、最終的な「日振動ばく露量： $A(8)$ 」を計算します。

複数の振動工具を使用する場合でも、その振動ばく露時間が「日振動ばく露限界値 ($A(8) : 5\text{m/s}^2$)」および「日振動ばく露対策値 ($A(8) : 2.5\text{m/s}^2$)」を超えるかが判断できます。

- 1日当たりの振動ばく露時間（作業時間）：T は合計で 2 時間以内で設定してください。
- 日振動ばく露量： $A(8)$ は 5m/s^2 以下となるように、各振動工具の振動ばく露時間（作業時間）T を設定してください。

	個別の作業番号 (i)						合計	
	1	2	3	4	5	6		
3軸合成値 $a_i (\text{m/s}^2)$								2時間以内 日振動ばく露量 $A(8)$ (m/s^2)
振動ばく露時間 T_i (時間)								
$A_i(8) = a_i \times \sqrt{\frac{T_i}{8}}$							$\sum A_i(8)^2$	$A(8) = \sqrt{\sum A_i(8)^2}$
$A_i(8)^2$								5 m/s^2 以下

1. ノモグラム（30ページの「日振動ばく露量 $A(8)$ 」に記載）に、個別作業の周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値を（a）、振動ばく露時間を（c）にプロットし、2つの点を結んで個別の振動ばく露量（b） $A_i(8)$ を読み取り、上記の表に記入します。個々の作業がいくつもある場合は同様の操作を繰り返し、 $A_i(8)$ を求め上記表に記載します。
2. 個々の作業の $A_i(8)$ の2乗を計算し、全ての作業別の値の合計を求め上記表に記載します。
3. 2. で求めた値の平方根を求め表に記載します。この値が「日振動ばく露量 $A(8)$ 」になります。

* 上テーブルは、

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobeto/roudou/gyousei/anzen/dl/090820-3a.xls>
を使用して求めることができます。

14. 保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、お買い求めの販売店へお申し付けください。

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い求めの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：納品した日から1年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この刈払機の補修用性能部品の、製造打ち切り後8年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

「11. 故障と対策」に従ってご確認のあと、なおらないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

- 保証期間中は、保証書の規定に従って、修理をさせていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは、修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ 修理ご相談窓口

お買い求めの販売店またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

ご連絡いただきたい内容（購入時、記入しておくとう便利です。）

品名	
型式	
機番	銘板に記載
お買い上げ日	年 月 日
お買い求めの販売店名	TEL () -
故障の状況	できるだけ具体的に

当社連絡先

本社	〒704-8125	岡山市東区西大寺川口 465-1	TEL. 086-943-0051	
国内営業部	〒704-8125	岡山市東区西大寺川口 465-1	TEL. 086-943-0061	FAX. 086-943-0405
西日本営業所	〒704-8125	岡山市東区西大寺川口 465-1	TEL. 086-943-0062	
東日本営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町 1-389-9	TEL. 048-664-5771	FAX. 048-666-3790
九州営業所	〒839-0863	福岡県久留米市国分町 1172-4	TEL. 0942-21-9718	FAX. 0942-21-1676

株式会社 **ニッカリ**

URL <https://www.nikkari.co.jp/> E-mail kokunai@nikkari.co.jp

※ 所在地や電話番号は変更になることがあります。